

3) 初発の5大がんのUICC 病期分類別ならびに再発患者数

【初発の5大がんのUICC病期分類別（注1）ならびに再発患者数の集計方法と定義】

- ◆5大がんについて初発患者は UICC の TNM から示される病期分類による患者数を、再発患者（再発部位によらない）は期間内の患者数とする。
- ◆患者数は延患者数とする。例えば一連の治療期間に入退院を繰り返すなどを行った場合は、同一患者に入退院を繰り返した回数分をかけた延患者とする。
- ◆様式 1 の項目「がん患者/初発・再発」が 0（初発）かつ医療資源を最も投入した傷病名に対する ICD-10(2013 年版、以降 ICD10 とする)が、胃癌の場合は C16\$、大腸癌の場合は C18\$・C19・C20、乳癌の場合は C50\$、肺癌の場合は C34\$、肝癌の場合は C22\$における各患者数をカウントする。

（注：治療前に得られた TNM 分類情報と医療資源を最も投入した傷病名が必ずしも紐づかない場合もある。）

	がん患者/初発・再発	医療資源を最も投入した傷病名に対するICD10
胃癌	0(初発)	C16\$
大腸癌		C18\$・C19・C20
乳癌		C50\$
肺癌		C34\$
肝癌		C22\$

- ◆参考資料の UICC TNM 分類の病期（Stage）マトリクスを参考にし、5 大癌の Stage I から IV の患者数を入力。
- ◆各癌について、Stage の判定（UICC 病期分類及びに癌取扱い規約）に使用した版数を入力。同癌のうち複数の版数が混在する場合は、カンマ区切りを用いて列記すること。
- ◆大腸癌と肝癌については、様式 1 の「癌取扱い規約に基づくがんの Stage 分類」を利用しても構わない。その際、UICC 病期分類か「癌取扱い規約」かがわかるよう病期分類列に、UICC 病期分類の場合「1」を、「癌取扱い規約」の場合「2」を入力のこと。
- ◆TNM 分類が不正確等で病期（stage）が不明な場合は、「不明」としてカウントする。
- ◆Stage が「0」のものは集計対象外とする。
- ◆各癌における種類別の患者数が 10 件未満の場合は、「-」を表示する。
- ◆各癌における種類別の患者数が全て 0 件の場合は、該当する癌の「病期分類基準」と「版数」について「-」を表示する。

	初発					再発	病期分類基準（※）	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	35	5	11	28	39	12	1	8
大腸癌	29	56	25	32	87	61	1	8
乳癌	78	105	4	5	26	31	1	8
肺癌	84	30	40	133	103	58	1	8
肝癌	2	7	13	5	84	38	1	8

【解説】

当院は2010年4月に東京都がん診療連携拠点病院に指定され、2010年1月より院内がん登録を開始し、東京都がん診療連携拠点病院と地域医療支援病院として地域の診療所やクリニックでは対応困難な専門的な治療や、高度な検査・手術等を行う「地域完結型医療」の中心的役割を担っています。

＜胃がん＞26.9%をステージⅠが占め、約半数が手術のみの症例です。再発患者は9.2%であり主に初期治療患者の治療をおこなっています。

＜肝がん＞25.5%が再発症例であり、治療困難例に対して積極的治療をおこなっています。またフォローアップ中に発見された症例も多く、RFA（ラジオ波焼灼療法）が施行されています。

＜大腸がん＞ステージⅠ、Ⅱの半数は手術のみの治療です。ステージⅢ、Ⅳと再発患者は地域のクリニックや総合病院で対応困難な症例に対し手術や全身化学療法を施行されています。

＜乳がん＞がん検診の普及や乳房腫瘍の自覚によって発見され、その結果ステージⅠ、Ⅱが大半を占めています。Ⅰ期の半数は乳房を温存し、手術＋放射線＋薬物治療と集学的治療をチーム医療でおこなっています。

＜肺がん＞最も治療成績が良いとされる完全切除が期待できるステージⅠの割合が18.8%であり、手術適応から外れることの多いステージⅢ以上（38.6%）の治療困難例に対して積極的治療をおこなっています。